

しょうがくせい みな  
小学生の皆さんへ

ぶんさんとうこうきかん しゅうりょう ぜんいん つうじょう じゅぎょう はじ  
分散登校期間が終了し、全員そろっての通常の授業が始まりました。まだ 40分間の短縮授業ですが、  
がっこう かっき もどほんとううれ  
学校に活気が戻ってきて、本当に嬉しいです。

せんしゅう おきなわ せんじょう せんぼつしゃ な かたがた ついとう おも お かな  
先週、6月23日は沖縄が戦場になったときの戦没者（亡くなった方々）を追悼する（思い起こして悲しむ）  
おきなわいれい ひ せんそう お ぐん おきなわ じょうりく やく かげつ  
沖縄慰霊の日でした。戦争の終わりごろ、1945年3月からアメリカ軍が沖縄に上陸し、約3カ月におよぶ  
はげ たたか すえ にほん ぐんたい たたか お ひ まいねん せんぼつしゃついでうしき ろうどく  
激しい戦いの末、日本が軍隊としての戦いを終えた日が6月23日です。毎年、戦没者追悼式で朗読され  
る「平和の詩」に思いを寄せることが、私としてのせめてもの追悼です。

ことしえら さくひん しゅりこうこう たからあかね とき かいちゅうでんとう け  
今年選ばれた作品は、首里高校3年生高良朱香音さんの「あなたがあの時」でした。「懐中電灯を消してく  
ださい」という書き出しを目にした瞬間、私自身の沖縄での体験がよみがえってきました。もう20年程前、  
はじ おきなわ はい とき おきなわせん あいだ ひなんばしょ もち しぜん  
初めて沖縄の「ガマ」に入った時のことです。ガマとは、沖縄戦の間、避難場所として用いられていた自然  
の洞窟です。額に懐中電灯をつけながら奥まで入った時、ガイドの方の「懐中電灯を消してください」との  
ことば あ き わたし とき じんせい あじ  
言葉に、一つ一つと明かりが消えていきました。私はその時、それまでの人生で味わったことのないほどの  
くらやみ たいけん となり ひと ひと み ま くらやみ  
暗闇を体験しました。隣に人がいるのはわかっているのですが、その人すら見えない真っ暗闇です。しかも  
6月のガマは、大変な蒸し暑さであったに違いありません。このようなところで、何ヶ月も、息を潜めて暮らさ  
ざるをえなかった方々の魂の叫びが地の底から響いてくるようでした。

ことし へいわ し とき くらやみ たいけん おも お こ おお  
今年の平和の詩「あなたがあの時」は、ガマでの暗闇の体験を思い起こさせるとともに、それを超える大き  
な希望の光を与えてくれました。

「あなたがあの時 あの人を助けてくれたおかげで 私は今 ここにいる

あなたがあの時 前を見続けてくれたおかげで この島は今 ここにある」

げんだい わたし せんそう ひじょうじたい い じだい にな  
現代の私たちは、戦争のような非常事態ではありませんが、コロナとともに生きるという時代を担っていま  
す。先が何もみえず、不安は募るばかりです。しかし、今、一生懸命生きているというそのことが、未来の誰か  
につながっている。今、私のすることの一つひとつが、必ず未来を創っ  
ていくのだということを、この詩「あなたがあの時」は教えてくれました。

いちにちいちにち ていねい す  
一日一日を丁寧に過ごしていきたいです。

